(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第4290973号
(P4290973)

(45)発行日　平成21年7月8日(2009.7.8)　(24)登録日　平成21年4月10日(2009.4.10)

(51)Int.Cl.		F I		
A47B 96/00	(2006.01)	A47B	96/00	Z
A47B 96/20	(2006.01)	A47B	96/20	Z
A47B 55/00	(2006.01)	A47B	55/00	
A47B 17/00	(2006.01)	A47B	17/00	Z
A47B 17/04	(2006.01)	A47B	17/04	

請求項の数 5　(全 14 頁)　最終頁に続く

(21)出願番号　特願2002-366698(P2002-366698)
(22)出願日　平成14年12月18日(2002.12.18)
(65)公開番号　特開2004-194886(P2004-194886A)
(43)公開日　平成16年7月15日(2004.7.15)
審査請求日　平成17年12月1日(2005.12.1)

(73)特許権者　307042385
ミサワホーム株式会社
東京都新宿区西新宿二丁目４番１号
(74)代理人　100090033
弁理士　荒船　博司
(72)発明者　畑山　啓一郎
東京都杉並区高井戸東２丁目４番５号　ミサワホーム株式会社内

審査官　蔵野　いづみ

最終頁に続く

(54)【発明の名称】収納棚

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

壁面と所定間隔をあけて該壁面に沿って設けられる前面板と、該前面板と前記壁面との間に、前記前面板の上下方向に沿って複数段設けられる棚板とを備えた収納棚本体を有し、

該収納棚本体の両側端部において少なくとも左右方向から収納可能であり、

前記棚板は、前記壁面に直接固定され、

前記前面板は前記壁面と平行に配置されるとともに、床面から立設され、前記前面板の高さは前記天井面より低いことを特徴とする収納棚。

【請求項２】

請求項１に記載の収納棚において、

前記複数の棚板は、前記前面板の縁部よりも内側に設けられていることを特徴とする収納棚。

【請求項３】

請求項１又は２に記載の収納棚において、

前記棚板のうちの少なくとも１つの棚板が作業台として使用されることを特徴とする収納棚。

【請求項４】

請求項１～３のいずれか一項に記載の収納棚において、

前記壁面に凹部が形成されており、該凹部に前記前面板が対向するように前記収納棚本

体が配置されることを特徴とする収納棚。
【請求項５】
請求項１～４のいずれか一項に記載の収納棚において、
前記前面板に、前記収納棚本体の内部を露出する前面開口部が形成されていることを特徴とする収納棚。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、壁面に沿って配置され、少なくとも左右方向から収納可能な収納棚に関する。
【０００２】
【背景の技術】
従来より、住宅内の玄関や居室等の壁の壁面に沿って収納物を収納するための収納棚が設置されている。例えば、玄関に設置する収納棚としては、全体が吊られた状態で玄関の土間に隣接する壁の壁面に沿って設置される吊り戸棚が挙げられる（特許文献１参照）。
【０００３】
【特許文献１】
特開平１１－３４６８４４号公報（第１頁）
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
ところで、上述した収納棚は、壁面に対して直交する方向から（すなわち、壁面の正面から）収納物を収納しているので、収納物の奥行きに合わせて収納棚の奥行きが決定されることになる。そのため、収納棚の奥行きが広くなってしまい大型化するので、特に玄関等の狭いスペースに設置する場合には収納棚によって広いスペースがとられてしまう。また、収納棚の奥行きが広くなることから、居室等に設置した場合に、居室への圧迫感が大きく居室が狭く感じられることがあった。
さらに、収納棚の正面には、収納物が外側から見えないように開き戸や引戸が設けられているが、玄関等の狭い場所では、これら開き戸や引戸を開閉しづらく、また、開き戸や引戸は複数取り付けられていることが多いため、正面から見た際に見栄えがあまり良くないという問題もあった。
【０００５】
本発明は、上記事情に鑑みてなされたもので、小型化してスペースの有効利用を図ることができ、また、居室への圧迫感を小さくし、見栄えに優れた収納棚を提供することを課題としている。
【０００６】
【課題を解決するための手段】
上記課題を解決するために、請求項１の発明は、例えば、図８～図１０に示すように、壁面３と所定間隔をあけて該壁面３に沿って設けられる前面板１１と、該前面板１１と前記壁面３との間に、前記前面板１１の上下方向に沿って複数段設けられる棚板１２，…とを備えた収納棚本体１３を有し、
該収納棚本体１３の両側端部において少なくとも左右方向から収納可能であり、
前記棚板１２，…は、前記壁面３に直接固定され、
前記前面板１１は前記壁面３と平行に配置されるとともに、床面８から立設され、前記前面板１１の高さは前記天井面より低いことを特徴とする。
【０００７】
請求項１の発明によれば、前面板１１と棚板１２，…とを備えた収納棚本体１３を有し、収納棚本体１３の両側端部において少なくとも左右方向から収納可能であるので、収納物の幅に合わせて収納棚本体１３の奥行きを決定することができる。すなわち、収納棚本体１３の奥行きを狭くすることができることから、小型化でき、狭い玄関２等に設置しても場所を取ることなくスペースの有効利用を図れる。
また、収納棚本体１３の奥行きが狭くなることから居室４等（例えば、図８参照）に設置

した場合でも居室４に対して圧迫感を感じることなく、空間的な広がりを感じ取ることができる。
さらに、前面には前面板１１が配されており、収納棚本体１３の少なくとも左右方向から収納するので、前面に開き戸や引戸といった扉を設ける必要がなく、従来のように玄関２等の狭い場所に設置することで、扉を開閉しにくいといった不便さも解消できる。また、正面から見た際に前面板１１のみが見えて、見た目もシンプルで外観に優れる。

【０００８】

なお、収納棚本体１３の少なくとも左右方向から収納可能であるので、例えば、図６に示すように収納棚本体１３の上下方向から収納するようにしても良い。

【００１１】

請求項２の発明は、例えば、図８～図１０に示すように、請求項１に記載の収納棚１０において、
前記複数の棚板１２，…は、前記前面板１１の縁部よりも内側に設けられていることを特徴とする。

【００１２】

請求項２の発明によれば、複数の棚板１２，…は、前面板１１の縁部よりも内側に設けられているので、前面板１１によって収納棚本体１３内に収納された収納物が前面から見えることがなく見栄えが良い。また、前面板１１によって収納物が隠されることから前面に扉を設ける必要がなく、この点においても外観に優れコストの削減につながり、さらに、収納棚本体１３の側端部において一目でどこに収納物が収納されているかを把握でき使い勝手が良い。
また、収納棚本体１３の上面を棚として利用することもでき、特に、前面板１１の上端部が最上段の棚板１２の上面より突出していた場合には、収納棚本体１３の上面に載置した物が落下するのを防止できる。

【００１５】

請求項３の発明は、例えば、図１０に示すように、請求項１又は２に記載の収納棚８０において、
前記棚板１２，…のうちの少なくとも１つの棚板１２が作業台として使用されることを特徴とする。

【００１６】

請求項３の発明によれば、棚板１２，…のうちの少なくとも１つの棚板１２が作業台として使用されるので、棚板１２の上で作業を行え、収納以外の用途としても活用できることから機能性に優れる。

【００１９】

請求項４の発明は、例えば、図１３に示すように、請求項１～３のいずれか一項に記載の収納棚１１０において、
前記壁面３に凹部３bが形成されており、該凹部３bに前記前面板１１が対向するように前記収納棚本体１３が配置されることを特徴とする。

【００２０】

請求項４の発明によれば、壁面３に形成された凹部３bに前面板１１が対向するように収納棚本体１３が配置されるので、凹部３bの部分だけ奥行きが深くなり収納量が増えるうえ、壁面３から突出する部分は少なくて済むので居室４に対する圧迫感を小さくすることができる。

【００２１】

請求項５の発明は、例えば、図９に示すように、請求項１～４のいずれか一項に記載の収納棚７０において、
前記前面板１１に、前記収納棚本体１３の内部を露出する前面開口部７１が形成されていることを特徴とする。

【００２２】

請求項５の発明によれば、前面板１１に収納棚本体１３の内部を露出する前面開口部７

１が形成されているので、収納棚本体１３の左右方向の長さが長く、特に、収納棚本体１３内の中央に収納物を収納する場合に好適であり、前面開口部７１を介して収納棚本体１３内の中央に収納物をスムーズに出し入れすることができる。

【００２３】

【発明の実施の形態】

以下、説明の関係上、第１～第１１の実施の形態を図面に基づいて説明するが、本発明に係る収納棚は、第６～第８、第１０及び第１１の実施の形態である。

［第１の実施の形態］

図１は、第１の実施の形態の収納棚が設置された状態を示す住宅の間取り図、図２は、収納棚の斜視図、図３(a)は、壁面に設置された収納棚の正面図、(b)は、(a)の側面図、(c)は、(a)の平面図である。

図１に示すように、収納棚１０は壁面３に沿って配置され、少なくとも左右方向から収納可能な棚である。ここでは、玄関１の土間２に隣接する壁面３に設置される場合を例に挙げて説明する。

【００２４】

図２及び図３(a)～(c)に示すように、収納棚１０は、壁面３と所定間隔をあけて壁面３に沿って設けられる前面板１１と、該前面板１１と壁面３との間に、前面板１１の上下方向に沿って６段配列される棚板１２，…とを備えた収納棚本体１３を有している。収納棚本体１３の背面には、壁面３に沿って当接し、棚板１２，…に取り付けられる背面板１４が設けられており、背面板１４の上端面と最上段の棚板１２の上面とが面一で、かつ、背面板１４の下端面と最下段の棚板１２の下面とが面一とされている。

前面板１１の左右方向の長さは、棚板１２の左右方向の長さよりも長く、前面板１１の両側端部は棚板１２の両側端部から突出している。また、前面板１１の上下方向の長さは、背面板１４の上下方向の長さよりも長くなっており、前面板１１の上端部は最上段の棚板１２の上面から突出し、最下段の棚板１２の下面から突出している。このように、複数の棚板１２，…は、前面板１１の縁部よりも内側に設けられている。

さらに、収納棚本体１３内には、収納棚本体１３を左右方向に等分に仕切る仕切り板１５が取り付けられており、この仕切り板１５によって左右に２つの収納空間１６、１６が形成されている。

これら前面板１１、棚板１２、背面板１４、仕切り板１５は、図示しないがそれぞれ接合金具や接着剤等によって取り付け固定されている。

【００２５】

上述のように構成された収納棚１０は、背面板１４が壁面３に沿うとともに前面板１１が壁面３に対して平行となるように対向配置され、さらに、収納棚本体１３の下端部は土間２と離間している。また、収納棚本体１３の両側端部が前記壁面３と互いに直交する両壁面（図１、図３(c)では、一方の壁面３aのみ図示した）と離間している。

収納棚１０と壁面３とは、背面板１４から壁面３に向けて、図示しないビスや釘等が打ち込まれたり接合金具によって取り付けられている。

そして、収納棚本体１３の両側端部に形成された側面開口部において左右方向に収納物を収納できるようになっている。

【００２６】

以上、上記第１の実施の形態によれば、前面板１１と棚板１２，…とを備えた収納棚本体１３を有し、収納棚本体１３の両側端部において左右方向から収納可能であるので、収納物の幅に合わせて収納棚本体１３の奥行きを決定することができる。よって、収納棚本体１３の奥行きを狭くすることができることから、小型化でき、スペースの有効利用を図れる。また、このような収納棚１０を設置しても圧迫感を感じることなく、空間的な広がりを感じ取ることができる。

また、前面に開き戸や引戸といった扉を設ける必要がなく、従来のように狭い場所で扉を開閉しにくいといった不便さも解消でき、さらに、正面から見た際に前面板１１のみが見えるので、見た目もシンプルで外観に優れる。

収納棚本体１３の背面に背面板１４が設けられているので、背面板１４を介して収納棚本体１３を壁面３に強固に固定することができる。

また、収納棚本体１３の下端部は土間２と離間して配置されているので、土間２との間に物を置いたり、動作に必要なスペースとして使用することができる。さらに、収納棚本体１３の両側端部は、壁面３と互いに直交する両壁面3aと離間して配置されることから、収納棚本体１３の両側端部から収納物の出し入れをスムーズに行うことができる。

複数の棚板１２，…は、前面板１１の縁部よりも内側に設けられているので、前面板１１によって収納棚本体１３内に収納された収納物が前面から見えることがなく見栄えが良い。

また、収納棚本体１３の上面を棚として利用することもでき、前面板１１の上端部が最上段の棚板１２の上面より突出していることから、収納棚本体１３の上面に載置した物が落下するのを防止できる。

また、収納棚本体１３内には、仕切り板１５が設けられているので、収納物をそれぞれ分類して整理することができる。すなわち、例えば図１に示すように、玄関２の上がり框側に位置する収納空間１６には使用頻度の高い収納物を収納し、反対側の収納空間１６には使用頻度の低い収納物を収納するなどして使い分けることができる。

【００２７】

なお、上記において、棚板１２，…は、前面板１１に接合金具等によって取り付けられているとしたが、例えば図示しないが、前面板１１と背面板１４とにそれぞれ互いに対向する箇所に、上下方向に所定間隔で複数の穴を形成しておき、これら複数の穴にダボを挿入し、互いに対向するダボの上に棚板１２，…を載せて支持させるようにしても良い。このように構成することによって上下に配される棚板１２、１２どうしの間隔を適宜変更できるので、収納物の大きさに容易に対応することができる。

【００２８】

［第２の実施の形態］

図４は、第２の実施の形態の収納棚の斜視図である。

図４に示すように、収納棚２０は、第１の実施の形態と異なり、収納棚本体１３の両側端部に、該収納棚本体１３の側面開口部を開閉する側面扉２１、２１を蝶番等を介して取り付けられている。

また、この収納棚２０は上述した収納棚１０と異なり、最上段の棚板１２及び最下段の棚板１２の代わりに上面板２２及び下面板２３が別物として新たに設けられている。これら上面板２２及び下面板２３の左右方向の長さは、棚板１２の左右方向の長さよりも長くなっている。

なお、その他、第１の実施の形態と同様の構成部分については同様の符号を付してその説明を省略する。また、以下に説明する第３～第１１の実施の形態においても同様とする。

【００２９】

以上、第２の実施の形態によれば、側面扉２１、２１を設けることによって、側面から見た場合でも収納棚本体１３内に収納された収納物が隠されて外観に優れたものとすることができる。

その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。

【００３０】

［第３の実施の形態］

図５は、第３の実施の形態の収納棚の斜視図である（なお、図では正面と背面とが逆に示されている）。

図５に示すように、収納棚３０は、第１の実施の形態と異なり、背面板１４が矩形枠状の背面枠３１とされている。

以上、第３の実施の形態によれば、背面板１４を背面枠３１とすることで、背面板１４の厚み分、収納量が増えることとなる。また、図示しないが背面板１４は壁面３に取り付

けることができれば良いので棒状のものであっても良い。
その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。
【００３１】
［第４の実施の形態］
図６は、第４の実施の形態の収納棚の斜視図である。
図６に示すように、収納棚４０は、第１の実施の形態と異なり、左右方向のみならず上下方向にも収納可能とされている。
すなわち、仕切り板（図示しない）が左右方向に２枚配されており、これによって収納棚本体１３内には３つの収納空間１６，…が形成されている。これら３つの収納空間１６，…のうちの中央に位置する収納空間１６には、最下段の棚板１２に形成された下面開口部から上下に引き出し可能な引き出し部４１が設けられている。引き出し部４１は、例えば、該引き出し部４１の両側面に設けられたレールと、収納棚本体１３に設けられたワイヤ等によって引き出し可能に構成されている。また、中央に位置する収納空間１６に連通するように最上段の棚板１２が上側に開閉可能とされている。
【００３２】
以上、第４の実施の形態によれば、左右方向のみならず上下方向にも収納可能とされているので、収納物の出し入れが容易となる。
その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。
【００３３】
［第５の実施の形態］
図７は、第５の実施の形態の収納棚の斜視図である。
図７に示すように、収納棚５０は、第１の実施の形態と異なり、棚板１２が上下方向に２段配されており、収納棚本体１３内には例えば衣服等が吊られた状態で収納できるようになっている。ここでは、最上段の棚板１２に、ハンガー等が掛けられて左右方向にスライド移動するレール５１が取り付けられている。
【００３４】
以上、第５の実施の形態によれば、棚板１２が上下方向に２段のみ配されているので、高さのある収納物を収納することができ、例えばクローゼットとして利用できる。
その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。
【００３５】
［第６の実施の形態］
図８は、本発明の第６の実施の形態の収納棚が居室に設置された状態を示す斜視図である。
図８に示すように、収納棚６０は、第１の実施の形態の収納棚１０と異なり、背面板１４が設けられておらず、居室４の床面８から立設されている。このように収納棚６０には背面板１４が設けられていないので、直接、棚板１２，…から壁面３に対して、図示しないビスや釘、接合金具等によって取り付けられている。また、最下段の棚板１２が床面８から離間するように、棚板１２，…が上下方向に６段配されている。
【００３６】
以上、本発明の第６の実施の形態によれば、第１の実施の形態と異なり、収納棚本体１３が床面８から立設されているので、確実かつ強固に設置することができ、これによって背面板１４も必要としないことから、コスト削減につながる。その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。
【００３７】
［第７の実施の形態］
図９(a)は、本発明の第７の実施の形態の収納棚が居室に設置された状態を示す正断面図、(b)は、(a)のＡ－Ａ側断面図、(c)は、(a)のＢ－Ｂ側断面図、(d)は、(a)の平断面図で

ある。
図９(a)～(d)に示すように、収納棚７０は、第６の実施の形態と同様に背面板１４が設けられておらず床面８から立設されている。また、最上段の棚板１２の上面は前面板１１の上端面と面一とされている。
さらに、仕切り板１５、１５が左右方向に２枚配されており、これによって収納棚本体１３内には３つの収納空間１６，…が形成されている。これら３つの収納空間１６，…のうちの中央に位置する収納空間１６は、前面板１１の略中央部に形成された前面開口部７１によって前面に露出されている。そして、前面板１１には、この前面開口部７１を開閉するための前面開き戸７２が取り付けられている。このようにして形成された中央に位置する収納空間１６には棚板１２，…が６段配されており、下から２段目の棚板１２に、例えばテレビ７３等が載置されるようになっている。そして、前面開き戸７２を開放することによってテレビ７３が使用でき、閉鎖することによってテレビ７３を隠すことができる。
【００３８】
なお、中央に位置する収納空間１６に設けられた棚板１２，…のうち最上段の棚板１２と、上から２段目の棚板１２とは前後方向にスライド移動可能な可動棚であり、その他の全ての収納棚１２，…は固定棚である。
また、左側の収納空間１６と右側の収納空間１６とには、内部に収納物が収納されて左右方向に引き出し可能な引き出し部７４、７４がそれぞれ収容されている。
【００３９】
以上、本発明の第７の実施の形態によれば、前面板１１に前面開口部７１が形成されているので、収納棚本体１３の左右方向の長さが長い場合に好適であり、前面開口部７１を介して収納棚本体１３内の中央に収納物をスムーズに出し入れすることができる。また、前面板１１には前面開口部７１を開閉する前面扉７２が設けられているので、前面開口部７１から収納された収納物が隠されて、外観に優れたものとすることができる。
また、収納棚本体１３には引き出し部７４、７４が設けられているので、引き出し部７４、７４を左右方向に引き出すことによって、引き出し部７４、７４の奥側に収納された収納物の出し入れをスムーズに行うことができるとともに、小物類等をまとめて収納できる。
その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。
【００４０】
［第８の実施の形態］
図１０(a)は、引戸を閉鎖した状態を示す正断面図、(b)は、引戸を開放した状態を示す正断面図、(c)は、(b)の平断面図である。
図１０(a)～(c)に示すように、収納棚８０は、第８の実施の形態の収納棚８０と異なり、前面開き戸７２が左右方向にスライド移動可能な引戸８１であり、３つの収納空間１６，…のうちの左側の収納空間１６に配置された棚板１２，…が４段となっている。そして、棚板１２，…のうちの最下段の棚板１２をパソコンデスク等の作業台として利用可能とされている。
【００４１】
以上、第８の実施の形態によれば、棚板１２，…のうちの最下段の棚板１２をパソコンデスク等の作業台として使用することにより、収納以外の用途としても活用でき機能性に優れる。
その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。
【００４２】
［第９の実施の形態］
図１１(a)は、第９の実施の形態の収納棚が居室に設置された状態を示す斜視図、(b)は、(a)の正断面図である。
図１１(a)、(b)に示すように、収納棚９０は、第８の実施の形態の収納棚８０と異なり

、前面板１１が壁面３に対して傾斜するように棚板１２，…に取り付けられている。すなわち、前面板１１の両側端部のうち一方の側端部が壁面３に対して近接し、他方の側端部が壁面３から離間するように設けられている。また、仕切り板１５は１つとされ、これによって左右に収納空間１６、１６が２つ形成されている。

【００４３】

以上、第９の実施の形態によれば、前面板１１は、壁面３に対して傾斜するように棚板１２，…に設けられているので、特に収納空間１６を部分的に広くしたい場合や狭くしたい場合等に有効となる。

その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。

【００４４】

なお、図示しないが、前面板１１は、その上端部が壁面３に対して近接し、下端部が壁面３に対して離間するように棚板１２，…に設けても良いし、上端部が壁面３に対して離間し、下端部が壁面３に対して近接するように棚板１２，…に設けても良い。

【００４５】

［第１０の実施の形態］

図１２(a)は、本発明の第１０の実施の形態の収納棚が居室に設置された状態を示す正断面図、(b)は、(a)のＣ－Ｃ側断面図、(c)は、(a)の平断面図である。

図１２(a)～(c)に示すように、収納棚１００は、第８の実施の形態の収納棚８０と異なり、３つの収納空間１６，…のうちの右側の収納空間１６には、５段の棚板１２，…が配されており、最下段の棚板１２によって形成される空間にテレビ７３等が載置される基台１０１の一部が収納されている。すなわち、基台１０１の側端部には凹部１０２が形成されており、この凹部１０２に前面板１１がはめ込まれることによって床面８上に収納棚１００が支持されるようになっている。

【００４６】

以上、本発明の第１０の実施の形態によれば、基台１０１に前面板１１がはめ込まれることによって床面８上に支持されているので、より確実に床面８上に設置することが可能となる。

その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。

【００４７】

［第１１の実施の形態］

図１３は、本発明の第１１の実施の形態の収納棚が居室に設置された状態を示す平断面図である。

図１３に示すように、壁面３には凹部３bが形成されている。そして、この凹部３bを覆うようにして第６の実施の形態の収納棚６０と略同様の構成をなした収納棚１１０が設置されており、前面板１１が壁面３に対して平行となるように対向配置されている。

【００４８】

以上、第１１の実施の形態によれば、壁面３に形成された凹部３bに前面板１１が対向するように収納棚本体１３が配置されるので、収納量が増えるうえ、壁面３から突出する部分は少なくて済むので居室４に対する圧迫感を小さくすることができる。

その他、上記と同様の構成部分については、同様の効果を得ることができるのでその説明は省略する。

【００４９】

【発明の効果】

請求項１の発明によれば、収納物の幅に合わせて収納棚本体の奥行きを決定することができることから、小型化でき、狭い玄関等に設置しても場所を取ることなくスペースの有効利用を図れる。また、居室に対して圧迫感を感じることなく、空間的な広がりを感じ取ることができる。

さらに、前面に開き戸や引戸といった扉を設ける必要がない。また、正面から見た際に前

面板のみが見えるので、見た目もシンプルで外観に優れる。

【００５１】

請求項２の発明によれば、請求項１と同様の効果を得ることができるのは勿論のこと、前面板の両側端部によって収納棚本体内に収納された収納物が前面から見えることがなく見栄えが良い。

【００５３】

請求項３の発明によれば、請求項１又は２と同様の効果を得ることができるのは勿論のこと、棚板の上で作業を行え、収納以外の用途としても活用できることから機能性に優れる。

【００５５】

請求項４の発明によれば、請求項１～３のいずれか一項と同様の効果を得ることができるのは勿論のこと、収納量が増えるうえ、壁面から突出する部分は少なくて済むので居室に対する圧迫感を小さくすることができる。

【００５６】

請求項５の発明によれば、請求項１～４のいずれか一項と同様の効果を得ることができるのは勿論のこと、収納棚本体の左右方向の長さが長く、特に、収納棚本体内の中央に収納物を収納する場合に好適であり、前面開口部を介して収納棚本体内の中央に収納物をスムーズに出し入れすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】　第１の実施の形態を示すためのものであり、収納棚が設置された状態を示す住宅の間取り図である。

【図２】　同、収納棚の斜視図である。

【図３】　同、(a)は、壁面に設置された収納棚の正面図、(b)は、(a)の側面図、(c)は、(a)の平面図である。

【図４】　第２の実施の形態を示すためのものであり、収納棚の斜視図である。

【図５】　第３の実施の形態を示すためのものであり、収納棚の斜視図である。

【図６】　第４の実施の形態を示すためのものであり、収納棚の斜視図である。

【図７】　第５の実施の形態を示すためのものであり、収納棚の斜視図である。

【図８】　本発明の第６の実施の形態を示すためのものであり、収納棚が居室に設置された状態を示す斜視図である。

【図９】　本発明の第７の実施の形態を示すためのものであり、(a)は、収納棚が居室に設置された状態を示す正断面図、(b)は、(a)のＡ－Ａ側断面図、(c)は、(a)のＢ－Ｂ側断面図、(d)は、(a)の平断面図である。

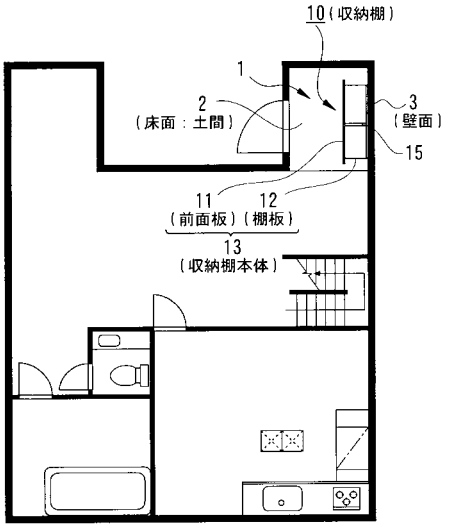
【図１０】　本発明の第８の実施の形態を示すためのものであり、(a)は、引戸を閉鎖した状態を示す正断面図、(b)は、引戸を開放した状態を示す正断面図、(c)は、(b)の平断面図である。

【図１１】　第９の実施の形態を示すためのものであり、(a)は、収納棚が居室に設置された状態を示す斜視図、(b)は、(a)の正断面図である。

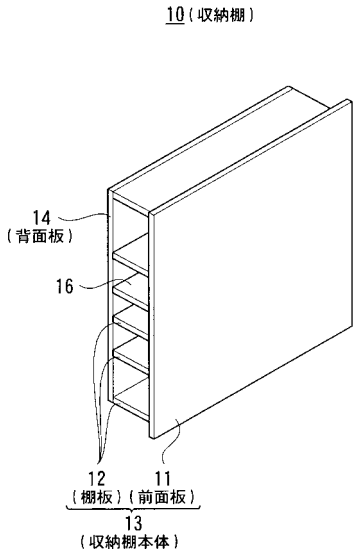
【図１２】　本発明の第１０の実施の形態を示すためのものであり、(a)は、収納棚が居室に設置された状態を示す正断面図、(b)は、(a)のＣ－Ｃ側断面図、(c)は、(a)の平断面図である。

【図１３】　本発明の第１１の実施の形態を示すためのものであり、収納棚が居室に設置された状態を示す斜視図である。

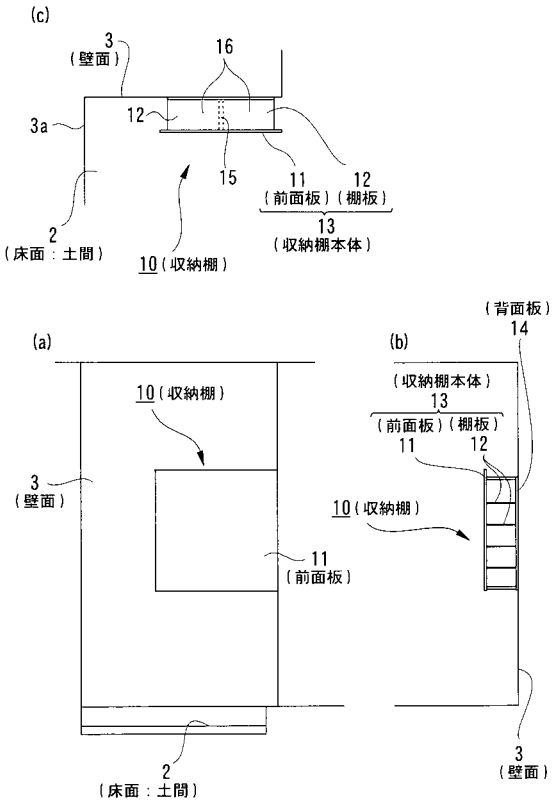
【図１】


10（収納棚）
1
2
（床面：土間）
3
（壁面）
15
11
（前面板）
12
（棚板）
13
（収納棚本体）

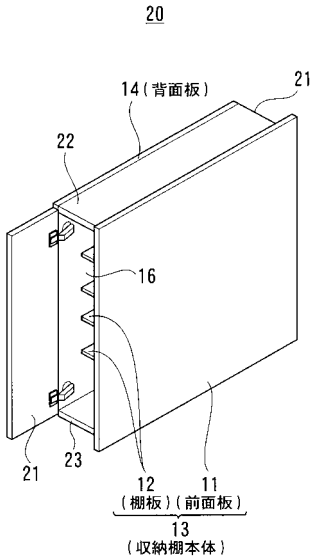
【図２】


10（収納棚）
14
（背面板）
16
12
（棚板）
11
（前面板）
13
（収納棚本体）

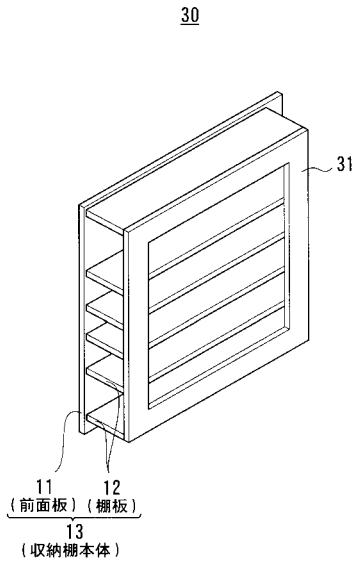
【図３】


(c)
3
（壁面）
16
3a
12
15
11
（前面板）
12
（棚板）
13
（収納棚本体）
2
（床面：土間）
10（収納棚）
(a)
10（収納棚）
3
（壁面）
11
（前面板）
2
（床面：土間）
(b)
（背面板）
14
（収納棚本体）
13
（前面板）
（棚板）
11
12
10（収納棚）
3
（壁面）

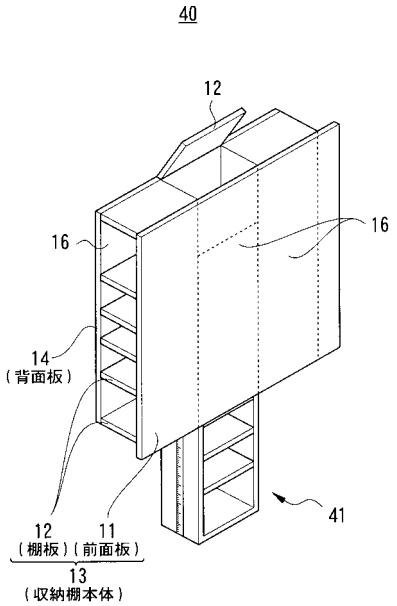
【図４】


20
14（背面板）
21
22
16
21
23
12
（棚板）
11
（前面板）
13
（収納棚本体）

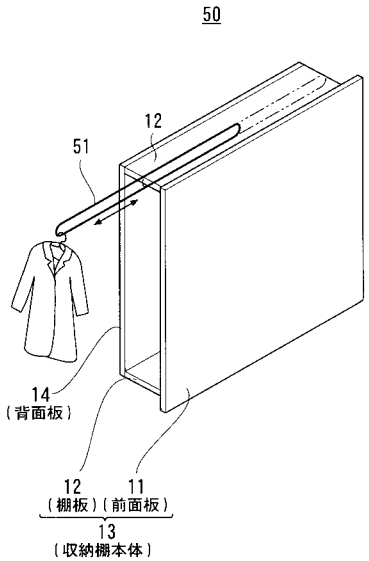
【図５】


30
31
11
（前面板）
12
（棚板）
13
（収納棚本体）

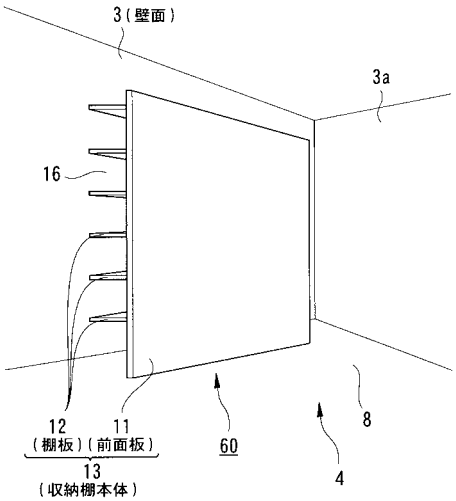
【図６】


40
12
16
16
14
（背面板）
41
12
（棚板）
11
（前面板）
13
（収納棚本体）

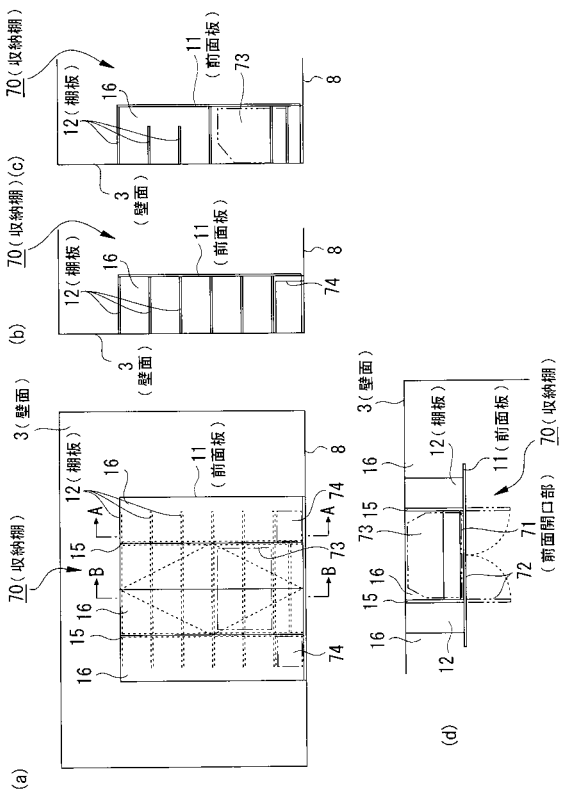
【図７】


50
12
51
14
（背面板）
12
（棚板）
11
（前面板）
13
（収納棚本体）

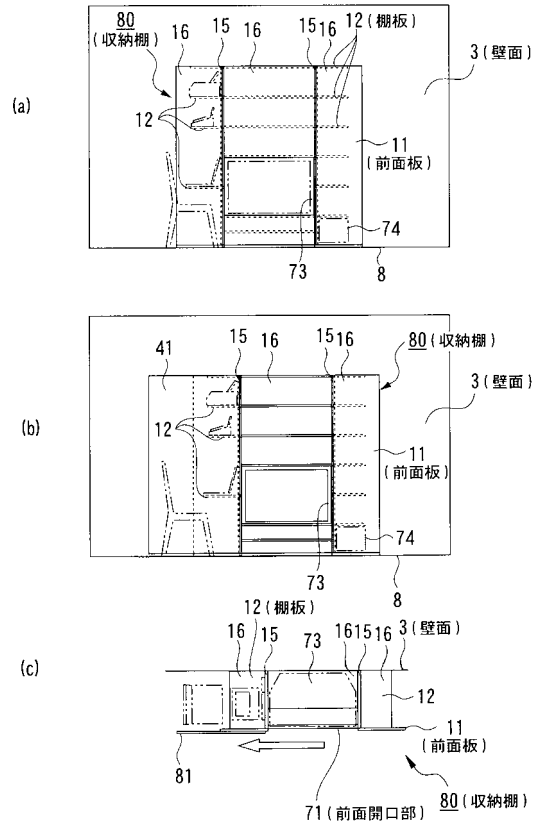
【図８】


3（壁面）
3a
16
12
（棚板）
11
（前面板）
13
（収納棚本体）
60
8
4

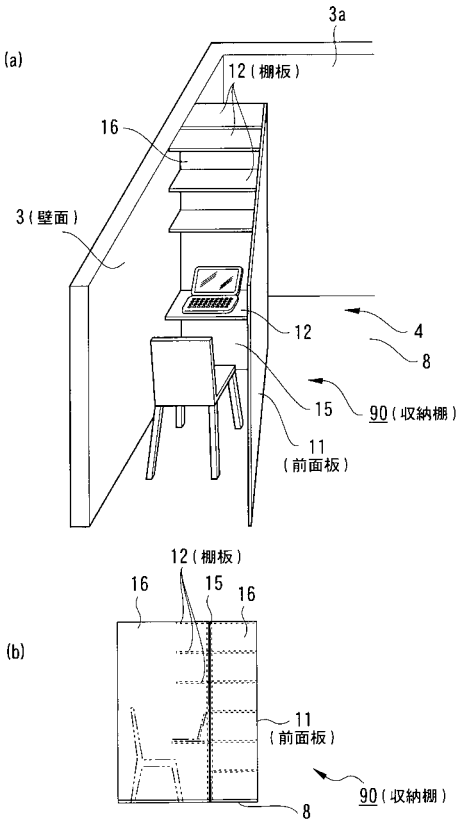
【図９】



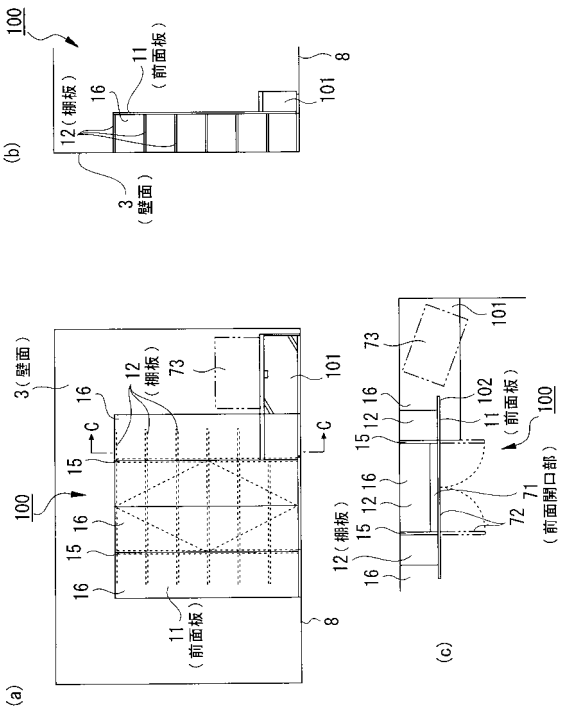
【図１０】



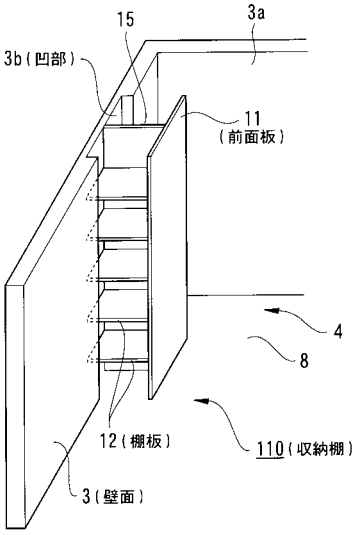
【図１１】



【図１２】



【図１３】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.			FI		
Ａ４７Ｂ	*81/00*	*(2006.01)*	Ａ４７Ｂ	81/00	Ｚ
Ｅ０４Ｆ	*19/08*	*(2006.01)*	Ｅ０４Ｆ	19/08	１０２Ｊ

(56)参考文献 特開平０３－１７３５０７（ＪＰ，Ａ）
特開平０５－２６１０１０（ＪＰ，Ａ）
実開平０４－０７１５３５（ＪＰ，Ｕ）
特開平１１－２３５２４１（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－３２３２４１（ＪＰ，Ａ）
実開昭５３－１１０８３０（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５８－１２６７４１（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A47B 1/00-97/08
E04F 19/08